

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
北海道ハイテクノロジー専門学校		昭和62年12月4日		塩野 寛		〒061-1396 恵庭市恵み野北2丁目12番1 (電話) 0123-36-8119			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人産業技術学園		昭和63年1月5日		宮川 藤一郎		〒061-1396 恵庭市恵み野北2丁目12番 (電話) 0123-36-8119			
目的	職業教育を通じて社会に貢献する為の建学の理念「実学教育」「人間教育」「国際教育」を通じて、業界に直結した職業人の育成を目的とし、IT(情報技術)技術者としての身構え、気構え、心構えを持ち、コミュニケーション能力に優れ、想像力豊かでクリエイティブな視点を持ったスペシャリストとしてIT社会を支える人材を養成する。								
分野	課程名		学科名		専門士		高度専門士		
工業	工業専門課程		情報システム学科		平成6年文部科学大臣 告示84号		-		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技		
2年	昼間	1935	525	1410					
生徒総定員		生徒実員		専任教員数		兼任教員数		総教員数	
80 人の内数		36 人の内数		3 人の内数		8 人の内数		11 人の内数	
学期制度	■1学期:4月1日～9月30日 ■2学期:10月1日～3月31日 ■3学期:			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 定期試験・平常点評価				
長期休み	■学年始:4月1日 ■夏季:7月23日～8月15日 ■冬季:12月23日～1月15日 ■学年末:3月31日			卒業・進級条件	選択必修科目・自由選択科目のどれかを必ず選択し、履修することが、進級・卒業要件となり、進級・卒業認定は判定会議にて学校長が行う。				
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 面談・保護者との連携			課外活動	■課外活動の種類 宿泊研修・学年交流会・学園祭 など ■サークル活動: 有				
就職等の状況	■主な就職先、業界等 IT企業および一般企業 ■就職率 ^{※1} : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 100% ■その他 (平成 27年度卒業者に関する 平成28年5月1日時点の情報)			主な資格・検定等	情報処理技術者試験 マルチメディア検定 情報活用試験				
中途退学の現状	■中途退学者 2名 ■中退率 4% 平成27年4月1日時点において、在学者45名(平成27年4月1日入学者を含む) 平成28年3月31日時点において、在学者43名(平成28年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止のための取組 サポートアンケート・面談・保護者との連携などにより学校全体で中途退学0%への取り組みを行っている。								
ホームページ	https://www.hht.ac.jp/								

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
 企業・業界の求める知識・技術が教育課程に反映されるように業界の動向に関して情報交換を行い、教育課程の改善および改定を定期的実施することを目的とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
 教育課程編成委員会は、教育課程の編成において企業・業界団体の意見を活かし、IT関連教育に必要となる最新のハードウェアおよびソフトウェア動向などの知識・技術を反映するための連絡体制を行う機関として活動する。委員会において、職業教育の水準の維持向上を図り、実践的な職業人教育を行うために、教育課程の改善および改定を定期的実施する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成28年8月30日現在

名前	所属	任期	種別
奥山 恒夫	株式会社 恵庭リサーチ・ビジネスパーク 代表取締役社長	2015.9月～ 2017.8月	①業界団体役員
八木 康之	国立研究開発法人 産業技術総合研究所 北海道センター所長	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
西村 浩樹	株式会社ホクド一営業部 部長	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
前仲 勝実	北海道大学大学院薬学研究院 生体分子機能学研究室 教授	2015.9月～ 2017.8月	②学会・学術機関有識者
菅原 直臣	NPO法人北広島ITネットワーク 理事長	2015.9月～ 2017.8月	①業界団体役員
藤浦 将輝	株式会社ナスカコンピュータ システムエンジニア	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
前田 元照	札幌市私立幼稚園連合会 会長	2015.9月～ 2017.8月	①業界団体役員
若林 尚子	恵庭市なのはな保育園 園長	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
清水 敏博	医療法人社団慶心会介護付き有料老人ホーム ラ・デュース恵み野 施設長	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
石本 良之	一般社団法人 医療秘書教育全国協議会 事務局長	2015.9月～ 2017.8月	①業界団体役員
藤本 尚之	医療法人社団 尾形病院 事務局長	2016.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
足立 晋	医療法人北農会 恵み野病院 事務局長	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
大橋 由美子	公益社団法人 北海道看護協会 札幌第三支部長	2015.9月～ 2017.8月	①業界団体役員
佐藤 真理	医療法人北農会 恵み野病院 看護部長	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
蔵重 勉	特定医療法人 修道会 本田記念病院 看護部長	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
太田 宗夫	一般社団法人 全国救急救命士教育施設協議会 代表理事	2015.9月～ 2017.8月	②学会・学術機関有識者
高橋 順一郎	医療法人社団 愛心館 理事長	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
瀧川 裕子	一般社団法人 北海道歯科衛生士会 副会長	2015.9月～ 2017.8月	①業界団体役員
尾島 玲子	医療法人社団 尾島歯科医院 理事	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
中川 喬	北海道公立大学法人札幌医科大学 名誉教授	2015.9月～ 2017.8月	②学会・学術機関有識者
畑中 孝輔	日本赤十字社 北見赤十字病院 眼科検査課 課長	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
安田 義幸	株式会社 馬場義肢製作所 代表取締役	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
柏崎 カネ	有限会社 三愛義肢製作所 代表取締役	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員
相馬 充晴	一般社団法人 日本義肢協会 北海道支部長	2015.9月～ 2017.8月	①業界団体役員
真下 泰	公益社団法人 日本臨床工学技士会 副会長	2015.9月～ 2017.8月	①業界団体役員
佐藤 忠寿	医療法人社団 養生館 苫小牧日翔病院 臨床工学技士 主任	2015.9月～ 2017.8月	③企業・関係施設役員

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役員(1企業や関係施設の役員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年2回開催
(開催日時)

平成27年7月4日	16:00～18:00	北海道ハイテクノロジー専門学校 第7校舎	732教室
平成28年7月2日	13:00～15:00	北海道ハイテクノロジー専門学校 第7校舎	732教室
平成29年2月4日	13:00～15:00	北海道ハイテクノロジー専門学校 第7校舎	732教室 (予定)

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

講師会議、講師研修会では前年度教育実績報告(検定試験合格状況、ドロップアウト率、長欠者、留年者報告等)や今年度教育方針及び学科カリキュラムの構成ならびにシラバスについての会議を実施。教育課程編成委員会において頂いた意見・評価については、学科内にて再検討し、意見交換を基本としてカリキュラムに反映させる。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係		
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針		
基礎スキルとしてのソフトウェア操作および、出版に関する入稿から製本までの一連の過程の専門技術についてのアドバイスおよびカリキュラム開発、制作物の評価・改善を行う。		
(2)実習・演習等における企業等との連携内容		
e-Book(電子書籍)作成に関する、基礎スキルとしてのPhotoshop, Illustrator, InDesignなどのソフトウェア操作および、出版に関する入稿から製本までの一連の過程の講義、電子書籍化のための指導。授業課程の目標ごとに作成するレポートの添削および、完成したe-Book作品についての添削、評価、批評を行う。通常授業をはじめ、特別授業も含めて、最先端の業界状況を反映し、授業を行う。		
(3)具体的な連携の例		
科目名	科目概要	連携企業等
卒業制作Ⅰ	個人またはグループでシステムの企画を作成し、ドキュメンテーション技法・コミュニケーションについて学び、実践に備える。	株式会社ブックスタイルプラス
卒業制作Ⅱ	個人またはグループでシステムの企画にそって進捗管理をしながら制作を行い、実践に備える。	株式会社ブックスタイルプラス
卒業制作Ⅲ	今までの学習成果の集大成として、ドキュメンテーション技法・プレゼンテーション技法を学び、実践に備える。	株式会社ブックスタイルプラス
e-Book編集企画Ⅰ	電子書籍の作成に関連する表現方法や編集企画について学ぶ。	有限会社インパクト
e-Book編集デザインⅠ	電子ブック制作に関連する取材についての技法や校正に関する知識・技術を学ぶ。	有限会社インパクト
3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係		
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針		
学園および学校が実施する担任研修、研究授業、教務部長会議などを通じて教員としての教授力向上を図る。専門スキルに関しては、IT関連業界が主催するソリューション、セミナー、研修会などに参加し、最新状況の収集を行い、学生指導・学生支援のスキルアップを図る。		
(2)研修等の実績		
①専攻分野における実務に関する研修等 平成27年5月8日 CG-ARTS協会「CGの表現のいま-アニメ制作動向」 平成27年7月1日 東京国際ブックフェア・国際電子出版EXPO 平成27年7月16日 ㈱Too主催 Adobe Creative Cloud最前線		
②指導力の修得・向上のための研修等 平成27年6月8日 個人情報に関する職員向け研修会(CPA) 平成27年7月23日 文部科学大臣認定「職業実践専門課程」に係る研修会 平成28年1月8 平成27年度 北海道私立専修学校各種学校連合会工業部会教職員研修会		
(3)研修等の計画		
①専攻分野における実務に関する研修等 平成28年7月1日 ITpro EXPO 2016 in 札幌 平成28年9月23日～25日 第23回 東京国際ブックフェア・国際電子出版EXPO(予定)		
②指導力の修得・向上のための研修等 平成28年7月22日(金)文部科学省認定「職業実践専門課程」に係る研修会		
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係		
(1)学校関係者評価の基本方針		
学校法人産業技術学園が設置する専修学校における教育・運営活動等の状況について、自ら行う点検及び評価の項目並びにその実施体制等について検証し、問題点を把握の上目標を明確化し、必要な支援・改善を行うことにより、教育水準の向上と質の保証を図ることが重要である。また多くの外部評価を受けることにより学校評価の精度を高め、客観性を持った評価による改善を目指したい。特に卒業生、保護者、地域住民、企業等との相互理解と連携を確立し、学校の説明責任を果たしていくよう努めることにより学校の組織力を高め地域に支えられる学校づくりにも貢献したい。		
(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応		
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目	
(1)教育理念・目標	1-1理念・目的・育成人材像は定められているか	
(2)学校運営	2-4運営方針は定められているか 2-5事業計画は定められているか	
(3)教育活動	3-10各学科の教育目標、育成人材像はその学科に対応する業界の	
(4)学修成果	4-19就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が	
(5)学生支援	5-23就職に関する体制は整備されているか	
(6)教育環境	6-31施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	
(7)学生の受入れ募集	7-34学生募集活動は適正に行われているか	
(8)財務	8-38中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	
(9)法令等の遵守	9-42法令、設置基準などの遵守と適正な運営がなされているか	
(10)社会貢献・地域貢献	10-46学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	
(11)国際交流	11-48グローバル人材の育成に向けた国際交流などの	
※(10)及び(11)については任意記載。		

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

自己点検自己評価については、「計画」「実践」「評価」の一連のサイクルを行うために、学校評価ガイドラインに設定した目標や、具体的な計画の実践状況について学校評価委員会を開催し懇談を通じての意見や要望を聴取する。聴取した内容は、学校運営に関する事項は、学内の学校長、副校長、教務部長、部署長の会議である「運営会議(定例会毎週1回)」にて運営の見直し並びに次年度事業計画修正への検討を行い12月には改善計画を含めた事業計画を策定する。一方教育活動については教員及び学科長で構成される学内組織である「教育改革委員会(定例会月1回開催)」にて検討し、1月には次年度カリキュラムの改定にむけての検討ならびに日々の授業運営の改善にを実施している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成28年8月30日現在

名前	所属	任期	種別
佐藤 忠寿	医療法人社団 養生館 苫小牧日翔病院	2015.9月～ 2017.8月	卒業生
野 清美	動物科学科保護者	2015.9月～ 2017.8月	保護者
大場 真哉	帯広大谷高等学校	2015.9月～ 2017.8月	高等学校
早坂 貴敏	恵庭市市議会議員	2015.9月～ 2017.8月	近隣関係
奥山 恒夫	株式会社 恵庭リサーチ・ビジネスパーク	2015.9月～ 2017.8月	企業等委員
足立 晋	医療法人北農会 恵み野病院	2015.9月～ 2017.8月	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ

URL: <https://www.hht.ac.jp/resources/pdf/abm00027340.pdf>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者に対しては、業界視点を越えた教育施設としての社会活動からの評価視点を得ることが出来るため、これらを学校教育の客観的な評価、運営での業界目線、地域目線、保護者目線、卒業生目線、そして行政目線から第三者の外部評価と意見をいただく委員会として位置づけをしている。したがって、その情報提供は、学科ごとに設けた教育課程編成委員からの教育評価や産学連携、業界連携についての報告を密に行うとともに、入学式、実習報告会、懇談会、研究発表会、学園祭、卒業式等の行事にも委員の出席をいただき、学園の生の活動の理解を得る機会を持つように心がけとともに、ホームページを通じて積極的に学校情報を発信し、学校の運営状況について知っていただく機会を持つ努力と教育施設としての水準の向上に努めている。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	(1) 学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	(2) 各学科等の教育
(3) 教職員	(3) 教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	(4) キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	(5) 様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	(6) 学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	(7) 学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	(8) 学校の財務
(9) 学校評価	(9) 学校評価
(10) 国際連携の状況	(10) 国際連携の状況
(11) その他	(11) その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

HP <https://www.hht.ac.jp/disclose-information.html>

授業科目等の概要

(工業専門課程情報システム学科) 平成28年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			講読演習Ⅰ	社会の仕組み、マナーを実際的な題材をもとに学習する。試験およびレポートによって評価する。	1前	30	1		○		○		○		
○			講読演習Ⅱ	就職に対する心構え、マナー、各種就職試験対策を行う。試験およびレポートによって評価する。	1後	30	1		○		○		○		
○			講読演習Ⅲ	社会人基礎力として必要な「前に踏み出す力」「考え抜く力」「チームで働く力」について学ぶ。試験およびレポートによって評価する。	2前	30	1		○		○		○		
○			保健体育Ⅰ	運動能力の向上および主体性・実行力の向上を目指す。レポートと出席によって評価する。	1前	30	1		○		○		○		
○			保健体育Ⅱ	運動能力の向上および集団活動による社会性の習得を目指す。レポートと出席によって評価する。	2前	30	1		○		○		○		
○			英会話	英語で会話し、コミュニケーションが出来る事を目指す。試験によって評価する。	1前	15	1	○			○		○		
○			アルゴリズム	プログラムを作成するときの基本となる動作手順をフローチャート(流れ図)を作成して学習することにより論理的な思考能力を身につける。試験によって評価する。	1前	30	2	○			○			○	
○			WEB基礎	HTMLを利用したWEBサイトの作成や効果的なWEBサイトを作成するためのデザイン手法・CSS、JavaScriptなどを学習する。試験およびレポートによって評価する。	1前	30	1		○		○		○		
○			コンピュータリテラシー	コンピュータの仕組みと働き、基本的操作方法と活用についてハードウェア・ソフトウェアの両面から理解することを目指す。試験によって評価する。	1前	30	2	○			○		○		
○			オフィスツールⅠ	現代社会では必須となっている表計算ソフトの技術習得を行う。試験およびレポートによって評価する。	1前	60	2		○		○			○	
○			一般教養Ⅰ	社会常識としての一般教養を身につける。試験によって評価する。	1後	30	2	○			○		○		

○		一般教養Ⅱ	社会常識としての一般教養および業界知識を身につける。試験によって評価する。	2 前	30	2	○			○	○		
○		業界研究	社会における企業の分類や組織体系などについて学び、社会知識を習得する。レポートと出席によって評価する。	1 後	30	1		○		○	○		
○		コンピュータ基礎Ⅰ	情報処理技術者として活躍するために必要なストラテジ系・マネジメント系・テクノロジ系に関する基礎的な知識の習得を行う。e-learningを一部に導入する。試験によって評価する。	1 前	30	2	○			○		○	
○		基本情報基礎Ⅰ	基本情報技術者として、情報技術全般に関する基本的な知識・技能をもつ者として必要な学習を行う。試験によって評価する。	1 前	90	6	○			○		○	
○		CG基礎	コンピュータグラフィックスの基礎理論を学習する。試験によって評価する。	1 前	30	2	○			○		○	
○		マルチメディア	マルチメディアの基礎理論を学習する。試験によって評価する。	1 前	30	2	○			○		○	
○		情報モラル	IT機器を利用する際のマナーや著作権、法規関連についての知識を深める。試験およびレポートによって評価する。	2 後	30	2	○			○		○	
○		基礎Illustrator	2D系ドローソフトを利用したCG作成方法やデザイン手法などを学ぶ。試験およびレポートによって評価する。	1 前	30	1		○		○		○	
○		基礎Photoshop	2D系ペイントソフトを利用したCG作成方法やデザイン手法などを学ぶ。試験およびレポートによって評価する。	1 前	30	1		○		○		○	
○		Visual BasicⅠ	Windowsで動くアプリケーションを開発する言語として最もポピュラーなVisual Basicの基礎を学ぶ。試験およびレポートによって評価する。	1 前	30	1		○		○		○	
○		データベースⅠ	膨大なデータの中から必要なデータを加工するデータベースについてACCESSを用いて理解する。試験およびレポートによって評価する。	1 前	30	1		○		○		○	
○		ネットワークⅠ	LPICレベル1(101)に必要な、Linuxの基本操作とシステム管理について学ぶ。試験およびレポートによって評価する。	1 後	30	1		○		○		○	
○		ネットワークⅡ	LPICレベル1(102)に必要な、Linuxの基本操作とシステム管理について学ぶ。試験およびレポートによって評価する。	2 前	30	1		○		○		○	
○		WEB応用	Webページを制作するためのHTMLコーディングについて学ぶ。試験およびレポートによって評価する。	1 後	30	1		○		○		○	

○			プレゼンテーションⅠ	プレゼンテーションに必要なソフトウェア操作方法を学ぶ。試験およびレポートによって評価する。	1 後	30	1		○	○	○							
○			プレゼンテーションⅡ	発表技術および、効果的なプレゼンテーションを行うための技術を学ぶ。試験およびレポートによって評価する。	2 前	30	1		○	○	○							
○			WEBシステム	Webサイトの企画・制作・デザインに関する技術を学習する。試験およびレポートによって評価する。	2 前	30	1		○	○	○							
○			総合演習	これまでの学習を振り返り、自分の弱い科目もしくは強化したい科目を自主的に学習することにより強みの育成と自主性の育成を行う。試験およびレポートによって評価する。	2 前	90	3		○	○	○	○						
○			卒業制作Ⅰ	個人またはグループでシステムの企画を作成し、ドキュメンテーション技法・コミュニケーションについて学び、実践に備える。試験およびレポートによって評価する。	2 前	30	1		○	○	○	○	○					
○			卒業制作Ⅱ	個人またはグループでシステムの企画にそって進捗管理をしながら制作を行い、実践に備える。試験およびレポートによって評価する。	2 後	150	5		○	○	○	○	○					
○			卒業制作Ⅲ	今までの学習成果の集大成として、ドキュメンテーション技法・プレゼンテーション技法を学び、実践に備える。試験およびレポートによって評価する。	2 後	150	5		○	○	○	○	○					
○			基本情報基礎Ⅱ	基本情報技術者として、情報技術全般に関する基本的な知識・技能をもつ者として必要な学習を行う。試験によって評価する。	1 後	120	8		○	○	○	○						
○			基本情報基礎Ⅲ	基本情報技術者として、情報技術全般に関する基本的な知識・技能をもつ者として必要な学習を行う。試験によって評価する。	2 前	30	2		○	○	○	○						
○			基本情報基礎Ⅳ	基本情報技術者として、情報技術全般に関する基本的な知識・技能をもつ者として必要な学習を行う。試験によって評価する。	2 後	30	2		○	○	○	○						
○			システム設計	コンピュータを使ったシステム開発の手順や手法について学習する。試験およびレポートによって評価する。	1 後	30	1		○	○	○	○						
○			JavaⅠ	プログラミング言語Javaについてコーディングを学ぶ。試験およびレポートによって評価する。	1 後	30	1		○	○	○	○						
○			Visual BasicⅡ	実用的なプログラム作成ができるように、コーディングを学ぶ。試験およびレポートによって評価する。	1 後	30	1		○	○	○	○						
○			CGⅠⅠ	Web上での動的な画面作成方法であるCGIについてその仕組みを理解するとともにASPまたはPerlを使った実習を行う。試験およびレポートによって評価する。	1 後	30	1		○	○	○	○						

		○	CG II	2DCG・3DCGについて作品制作を通して学習する。レポートによって評価する。	2 前	30	1		○	○	○
合計				68科目	1935単位時間(82単位)						

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
どれかを必ず選択し、履修することが、進級・卒業要件となり、進級・卒業認定	1 学年の学期区分	2期
	1 学期の授業期間	16週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。